生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター元浜 担当圏域レベル）開催報告書	
1　開催日時	令和　6　年　1月　22　日　（　水　） 10　時　00　分　～　11　時　30　分
2　開催場所	アイミティ浜松
3　参加者	17名
委員10名（曳馬地区6名、北地区4名）、関係機関7名	
4　協議の内容	

1．開会
2．挨拶　　元浜圏域生活支援体制づくり協議体会長
3．協議事項
(1)前回会議の振り返り
　パワーポイント資料を用いて前年度協議体会議の振り返りを行った。
(2)本圏域の傾向と事例紹介
　①包括支援センター元浜
　最近の包括元浜圏域における相談の傾向と対応。また、会議参加者が関わるような身近な事例についてパワーポイントを使い説明。
　(ヘルパー不足。8050 問題。虐待を含む権利擁護問題。孤立の問題。)
　②浜松市社会福祉協議会 CSW
　令和６年度の CSW が対応した相談の傾向と対応。曳馬地区における孤立に関する事例の発表を行った。(生活困窮。子育て世帯の問題。孤立は様々な年代で起きている。)
　③中央福祉事業所　長寿支援課
　長寿支援課で対応した地域で孤立している方の事例について資料を基に発表した。
　(病気。や孤立にて課題有。最終的には施設入所となってしまった方)
　④曳馬北地区民生委員児童委員協議会　　鈴木会長
　民生委員として地域と関わる中で気づいた事、地域の傾向と課題について。
　・高齢者問題が多い→施設入所のハードル増。認知症問題。認認介護。高齢者独居。
　　→8050 では無く 9060 もいる。孤独死などもあり、曳馬でも増加している。
　・身元保証問題。→身元保証ができないような孤立世帯増。本人が亡くなった後について
　・引きこもりやセルフネグレクト事例などもある。既に孤立している方。
　・高齢者が高齢者を支える仕組みが必要。自治会や民生、相談機関の連携も。
5．閉会

(3)協議
【意見交換内容】
・高齢者の孤立の問題だけでなく、子どもの孤立支援も地域には不足している
　曳馬塾では生活困窮者や片親の方などに向けて支援を展開しているが、生活

に困っている方は中々制度に繋がらない印象がある。
学習支援だけでなく、居場所支援も検討しなくてはいけないと思っているが、どうしたら本当に必要な方に届くのか日々試行錯誤している。
・民生委員の支援に対する壁の問題→世帯の課題に入り込むのは難しい。
・老人クラブも独居高齢者が中々参加してくれない。理由としては場所に来れない方やそもそも活動に理解をいただけない方もいる。
・曳馬地区社協活動でも研修や講演会に足が無く参加できない方もいる。
・地域の問題が複雑化することで担い手不足にも影響している
・北地区社協も北小学校跡地を使って輪投げや餅つきなどを地域の方が集まるきっかけにする為活動しているが、地域住民の意識も変わっており、参加しない方が増えている。
→地域で意識のある方が頑張っており広がりが少ないと感じる。

５　今後の見通し・必要な対応

今回の会議内容では

①困難さを抱えている方にどうアプローチするのか

②孤立を防ぐためにどのような方法があるのか

が大きく課題視されている。

関係機関によって関わり方は変わるが、担い手も含めて地域の方が参加してくれる事が地域には必要なのではないかとの意見が多かった。

孤立を防止するというテーマの中では自分たちに何ができるのかを今後考えていきたい。